



明日可行也、申刻出御、[ ]右大臣爲内弁、薨会如恒、但右大將顯光[ ]返授蓋之後、又致拝礼、[大失礼]也、諸卿側目、[ ]終事了、見參上達了右大臣[ ]([顯力]・公、)・中納言四人(時・懷・忠・余、)參議五人、(安・惟・公・誠・俊、)[ ]國、歸家之後、右府消息云、花山[ ]皇キ(三條西家重書古文書一ノ諸記録抄出ノ内二、同(野略抄)長徳二年正月十六日、右府消息云、花山法王・内大臣・中納言隆家相遇故一条太政大臣家、有鬪乱事、御董子二人?害取首持去云々トアリ)

○此間底本脱落アリ

[二月]

[五日、丙子、]尉[源]致光及兄弟等宅、有隱居精兵之聽、遣廷尉可令搜檢、雖云五位以上宅、不奏事由直以可搜檢、又自余疑所々[可]搜檢者、件事似有事[ ]([疑力]、[菅原]董宣朝臣者内大臣[藤原伊周]家司也、致光又在彼宅[ ]也、内苻[府]多養兵云々、承仰退出、詣右府、即歸[ ]仰權佐[源]孝道朝臣及檢非違使等、入夜廷尉等歸來云、搜檢董定[宣]宅、董定[宣]朝臣向故入道三位([源]清延、)葬送所、但搜檢彼宅、有八人者、(弓・箭二腰、)則捕得者、參内可令奏聞之由仰了、又搜檢致光、無致光、隣保云、々[衍力]召使未來之前、七八人兵逃在[去力]已了者、件事々佐以下皆悉馳向、事頗可驚、多是依京内不静所被行坎、京内及山々日々可搜檢之由、仰官人等了、

十一日、壬午、中宮[藤原定子]行啓延引之由云々、仍召外記相[林]門、取案内於宮及頭中將[藤原齊信]、今日無行啓云々、左[右力]大臣、大納言[藤原]公季、中納言[源]時中、參議[藤原]安親・[源]俊賢在陣、内大臣[藤原伊周]・中納言[藤原]隆家罪名可勘之由、[藤原道長]頭中將出陣仰右大臣、滿座傾嗟、秉燭退出、

行啓事面問頭中將、云、可隨後仰之由、去夕有仰者、

三月

二日、壬寅、參内、左武衛[藤原公任]相公同車參女院[藤原詮子]、彈正親王[爲尊]・帥々[教道新王]・右大臣[藤原道長]・兩大納言[藤原顯光・同公季]・中納言二人([藤原]懷忠余、)・參議六[マ、]人([藤原]道綱・[藤原]時光・[藤原]公任・[藤原]誠信・[源]俊賢、)・三位三人(懷[平]・[菅原]輔正・[藤原]有國)・同參、依當五卷日、有捧物事、依雨不廻庭中、只廻殿上、多人無便、道綱重服人、雲上重服者皆在之中、前々不見事也、頭中將[藤原齊信]傳綸旨云、明日中宮[藤原定子]出御里第者、召遣外記、且以此由仰遣大外記致時[中原]朝臣、甚雨不能參内、外記遠[行脱力]不參來、

四日、甲辰、參内、今夜中宮出御二条北宮、外記申云、左馬寮依進怠状、不能供者、仍奏事由之處、仰云、今日免給了、早可令供奉者、即仰外記參中宮、(御坐職御曹司、)時之[々]雨降、入夜弥倍、左大弁[平]惟仲・右兵衛督[源]俊賢扈從、自余公卿皆悉申障、不用御輿、御檣榔毛御車、戌剋出御自陽明門、里第無饗、公卿以下立各分散、大納言[藤原]顯光卿子二剋着座、件事衰時々、一説又云、春辰着座得罪、大凶者、

十日、庚戌、參内、藤大納言[顯光]・左大弁[平惟仲]在陣、定季御讀經闕請、余參女院、右大臣、中納言懷忠、參議時光・惟仲・輔正(散三位、)・[藤原]公任・[藤原]誠信・俊賢同參、廿八講了、公家給度者、有御諷誦、其後一兩所有諷誦、[納言]以下執請僧祿、秉燭退出、

十九日、己未、晩頭參内、令召二省、入夜參入、召外記[能登]守成、召々物、直物入管持來、以外記令披封、外記守成三个座[度]申式ア候由、是例也、式ア丞菅原定義着靴立小廷、余云、万宇古、定義稱唯、來跪膝突、余以右手賜除目、定義插笏之間、太久前々也[マ、]如挿只置、不知前例坎、定義着淺履、着膝衝、賜直物、(當年者乍付籤\_\_\_\_賜之、舊年者[放カ]枚重卷、指挾算共下給、)了退出、次兵ア丞藤原信經參入、賜直物、戌終退出、

[東三条院依御惱被行赦令事]

廿八日、戊辰、自内有召、即參入、藏人頭[藤原]行成仰云、東三条院御惱不輕、可行赦令、犯八虐・強窃二盜・私鑄錢・常赦所不免者、非赦除限者、召外記[中原]致時朝臣、召見年々詔書、召遣内記・中務輔[良峰遠高]、又仰云、可令進未断囚勘文者、仰府生好兼[飛鳥部]、大内[記]齋[紀]名參來、仰詔書趣、入夜輩[草カ]了進之、見了奉右府、歸來之後、進御所奏聞、返給、令清書又奏、御画日了返給、後着仗座、召中務省(輔遠高、)給之、未断囚勘文令奏聞、仰云、輕犯者殊不見、相定可免給者、撰奏[者]僧一人・俗一人・女二人、相定奏聞、即有勅許、指點下給好兼、須詔書施行之後原免、而御惱不輕、又有前例、忽以原免、以披[権]佐孝[源]道朝臣令書下宣旨、子一剋退出、

早朝參女院、謁右大臣、院御惱昨日極重、被停院号・年爵年官等事之由、昨夜被奏聞了、又云、或人咒咀云々、人々厭物自寢殿板敷下堀[掘]出云々、

## [訓読]

[[正月]前闕、いま姑く年月を補う。行幸女院のこと]

五日、丙午、今日女院[藤原詮子]に幸す。午の二點、輿に乗り、建春・陽明等門を出づ、院に到る。中門において御輿を下ろす。拜礼の後、院御膳を供ず。藤{原}[顯光]大納言を陪膳と為す。公卿御前に召さず。公卿以下の諸陣皆□祿を給う、[源]成信の朝臣昇殿を聴す。還御之時、□[是ノミ見ユ]御輿に南階に下に於いて□。警蹕恒の如し。若しくは太後の宮[昌子内親王]の命有る坎。未だ秉燭に及ばずして、宮に還る。扈從は右大臣[藤原道長]・大納言二人(顯[藤原顯光]・公[藤原公季]、)・中納言三人(時[源]時中]・懷[藤原懷忠]・余、)・參議四人、(惟[平惟仲]・公[藤原公任]・誠[藤原誠信]・俊[源俊賢])。參議[藤原]時光是留守となす。民部卿文範院に參る、參議[藤原]安親院に候う、

## [叙位の議の事]

六日、丁未。叙位の議、右大臣以下陣に在す。申剋に召しに应じて、参上す。議所に  
 着さず。参入の公卿、右大臣・内大臣[藤原伊周]・大納言二人(顯・公、)・中納言四人、  
 (時・懷、余、隆、)参議八人、(道・安・時・惟・公・誠・扶・俊、)院宮御給。\_\_\_\_  
 隆家之を奉る。叙位のもの、廿人。右大臣、書きおわりて、奏覽ののち、余を召す。  
 叙位薄に下し給ふ。(筥に入る。)すべからく執筆の人を笏に取り副て、退り下るべし。委  
 附せらるか。余、これを給ひ、侍所を出づ。更に叙位薄を笏に取り副て、退き下る。陣  
 に於いて外記を召す。所司を仰す、内記の座を敷かしむ。硯を召す。位記\_\_\_\_一々  
 檢察す。了わりて、右大臣廬を直して奉る。次で、御所に進る。\_\_\_\_(式・兵等なり。  
 加階なり。)奏せしめ了わりて、陣に復す。一筥に合わせ入れしむ。次で\_\_\_\_召す。  
 稱唯す。小庭に跪く。仰せて云く、印稱\_\_\_\_に軒廊少納言引き主鈴\_\_\_\_鈴退出して、  
 置きおわんぬ。將監[源の]忠規に立つ。余、中務を召す。少輔[良峯]遠高稱唯し、  
 膝突[脱アラン]。余位記を給ひ、(筥に入り、)これを受け、案に就き、少納言に印を擦  
 (おさ)しめ了わんぬ。遠高笏を執り、之を進る。一々の文を二筥に分け入れしむ。  
 内記二人に持たしめ御所に進み、奏覽す、返し給ふ。内記を以って次第せしむ。参議  
 [源の]俊賢を以て下名を書かしむ。式・兵各々一通を各々の筥に挿す、奏し了わり、  
 退出す。

十日、辛亥。参内す。女の叙位十四人、男の叙位有り。正五位下藤原兼隆 故右大臣の  
 子[藤原道兼]・従五位上藤原成周、(花山院御給)。其の次で、昇殿・侍中・雑を定  
 めらる。(藏人省内記[源]至光・大炊の亮 橘 行資雑色・)文章生源 雑色、昇殿藤  
 原廣業、雑色藤原周望・藤原頼經。

右大臣参上す。叙人の薄、復陣の後、大内記の紀名に下し給ふ。位記を作るべきの由を  
 仰す。宮の御給は二通、(一通は當年の御給。封を加ふ。名一字を書す。藤原明子。一通は寛和二  
 年の御即位の御給。未だ給わず。惟宗の義子。同じく下す。着但し封を加はえず。)[右]大臣・内大  
 臣・大納言二人・中納言二人(懷・余)・参議五人(安・扶・公・誠・俊、)仗の座において、  
 受領功過を定む。深更に退出す。

十六日、丁巳、参内す。右府に命に依り。女叙位の位記請印の事、行わんと擬す。先  
 に位記に右府直廬於て入眼し奉る。此の間日漸く暮る。女叙位々請印に依て節〇〇記  
 す。御出に及ばんと欲す。依て、事の由を右府に於て申ししむ。請印の事を停む。明  
 日行ふべきなり。申の刻出御。右大臣を内弁と為す。蔭会は恒の如く。但し右大將

あきみつ さかずき さいきょうそくもく  
 顯光□□□ 蓋の後に返して授く。又拝礼を致す。[大いに失礼なり。]諸卿側目す。  
 げんざん かんたちめ あき きん ちゅうなごん とき かね かね  
 □□□□終りに事了んぬ。見参の上達部、右大臣、\_\_([顯]・公、)中納言四人、(時・懐・忠  
 よ さんぎ やす これ きん さね とし き か う ふ しょうそく  
 ・余、)参議五人、(安・惟・公・誠・俊。)\_\_國。家歸の後、右府消息して云く、  
 かざん さんじょうにしけじゅうしよこもんじよ しょうろくしよしつ うち やりやくしよ ちょうとく  
 花山□〔皇キ〕(三條西家重書古文書一ノ諸記録抄出ノ内に同(野略抄)長徳二年正月十六日  
 かざんほうおう ないだいじん ちゅうなごんたかいえ こ だじょうだいじん そうぐう とうらん  
 、右府消息して云く、花山法王・内大臣・中納言隆家故一条太政大臣家の家に相遇す。關乱の事あ  
 ぎよすこ がいくび  
 り。御董子二人害首を取りて持ち去ると云々とあり。)

ていほんだつらく  
 此の間底本脱落あり。

[二月]

ひのえね じょう みなもとの むねみつ きょうだい たく せいへい かく お きこえ ていじょう  
 [五日、丙子、]\_\_尉の[源]致光及び兄弟等の宅、精兵を隠し居るの聴あり。廷尉  
 つか そうけん ごい  
 を遣わし捜検せしむべし。五位以上の宅というといえども、事の由を奏さず。直に以て  
 じょうたが しょうしよ そうけん  
 捜検すべし、又、自余疑わしき所々を捜検すべしてへり。件の事、事の疑いあるに似  
 すがはら ただのぶ けいし  
 たり。[菅原]董宣朝臣は内大臣[藤原伊周]の家司なり。致光また彼の宅の\_\_にあるな  
 ないふ つわもの やしな たいしゆつ う ふ まいる  
 り。内府多く兵を養ふと云々、仰せを承りて退出す。右府に詣る、即ち\_\_に帰り  
 たかみち けびいし ていじょう ただのぶ  
 て権の佐孝道朝臣及び檢非違使等に仰す。夜に入り、廷尉等帰り来りて云く、「董宣  
 そうけん ただのぶ こにゆうどう きよのぶ そうそう ただし  
 の宅を捜検す。董宣朝臣は故人道三位([源]清延、)葬送所に向かう。但し彼の宅を捜検  
 ゆみ やふたこし すなわちほつとく さんだい  
 するに、八人の者あり、(弓・箭ニ腰、)則ち捕得す」てへり。参内して奏聞せしむべき  
 むねみつ そうけん むねみつ りんぼ  
 之由仰せおわんぬ。又致光を捜検するに、致光なし。隣保云く、「々[衍カ]召し使い未  
 にげさり くだん すけ  
 だ来らざる之前に、七八人の兵はすでに逃げ去りおわんぬ」てへり。件の所々に佐以  
 ことごとくはせむく すこぶり これ しずか  
 下の皆悉く馳せ向く。事を頗り驚くべし、多く是京内は静ならざる依り、行われる所  
 そうけん  
 欤。京内及山々を日々に捜検すべき之由、官人等に仰せおわんぬ。

じんご ぎょうけい えんいん げ きしょうもん はやし  
 十一日、壬午、中宮[藤原定子]の行啓を延引のよしと云々。仍つて外記相門[林]を召  
 あんない ちゅうじょう ただのぶ ぎょうけい  
 し、案内を宮に及び頭の中將[藤原齊信]に取る。今日行啓なしと云々、[右]大臣、大  
 きんすえ ときなか やすちか としかた ないだいじん ちゅうなごん  
 納言[藤原]公季、中納言[源]時中、参議[藤原]安親、[源]俊賢陣にあり。内大臣・中納言  
 たかいえ ざいめい かんが とうのちゅうじょうしゅうじん まんざ かたげなげく  
 隆家の罪名を勘うべきの由、頭中將出陣し、右大臣に仰す。満座の嗟げ傾く。  
 へいしよくたいしゆつ  
 秉燭退出す。

ぎょうけい まのあたり したが きさるゆう  
 行啓の事、面に頭の中將に問う。云く、「後、随ふべきの由、去夕仰せあり」て  
 へり。

三月

二日、壬寅。参内す。左武衛の相公[藤原公任]と同車し、女院[藤原詮子]に参る。  
 弾正の親王[爲尊]・帥の[新王敦道]・右大臣[藤原道長]・兩大納言[藤原頭光]・同公季  
 ・中納言二人([藤原]懷忠・余、)・参議六人([藤原]道綱・[藤原]時光・[藤原]公任・[藤原]誠信・[  
 源]俊賢、)三位三人(懷[平]・[菅原]輔正・[藤原]有國)同じく参る。五卷日に當るに依り、  
 捧物の事有り。雨に依り、庭中を廻らず、只殿上に廻る。人多くして便無し。道綱  
 は重服の人なり。雲上重服の者は、皆これあるの中、前々見ざる事なり。頭中將  
 [藤原齊信]綸旨を傳て云く「明日、中宮[藤原定子]里第に出御す」てへり。外記を召し  
 遣さんとす。且此の由しを以て、大外記[中原]致時朝臣を仰せ遣す。雨甚しく、参  
 内すること能わず。外記遠行、参り来たらず。

四日、甲辰。参内す。今夜中宮二条の北宮に出御す。外記申して云く、「左馬寮  
 怠状を進るに依り、供奉すること能ず」てへり。奏り事の由處(ところ／おる／おく)  
 に仍て仰して云く、「今日免し給わり了んぬ。早く供奉せしむべし」てへり。即ち外  
 記に仰せて、中宮に参る。時々雨降る。(御坐職の御曹司)夜に入り、弥倍す。左大弁[平]  
 惟仲・右兵衛督[源]俊賢扈從す。自余の公卿皆悉障を申す。御輿をもって檳榔毛で  
 御す。戌の剋、陽明門自り出御す。里第に饗無し。公卿以下立ちて、各々分散す。  
 大納言[藤原]頭光卿子の二剋に着座す。件の時に衰時と云々。一説又云く。春の辰に  
 着座罪を得る、大凶なりてへり。

十日、庚戌。参内す。藤大納言[頭光]・左大弁[平]惟仲陣にあり、季御読経の闕請を  
 定む。余女院に参る、右大臣、中納言懷忠、参議時光・惟仲・輔正(散三位、)・[藤原]  
 公任・[藤原]誠信・俊賢同じく参る。廿八講おわんぬ。公家度者を給う。御諷誦あり。  
 その後、一両所諷誦あり、納言以下請僧の禄を執る。秉燭退出す。

十九日、己未。晩頭に参内す。二省を召さしむ。夜に入りて、参入す。外記守成を召し  
 、召し物を召す。直し物を筥に入りて持ち来たる。外記を以て封を披かしむ。外記  
 守成三个度式部候ふの由を申す。是れ例なり。式部の省菅原定義靴を着して小廷に立  
 つ。余云く、「万宇古」。定義稱唯す。来たりて膝突に跪く。余右の手を以て除目を  
 賜ふ。定義淺履膝衝に着くす。直し物を賜う。(當年は[不]籤を付けながらこれ賜う。舊年  
 数枚重ねて巻き、指挾を算へてともに下し給う。)おわりてたいしゆつす。次で兵部丞藤原  
 信經参入す。直物を賜う。戌の終わり、退出す。

ひがしさんじょういんごのう しやれい  
[東三条院御惱に依り赦令を行わたる事]

廿八日、戊辰、内自り召しあり。即ち参入す。蔵人頭[藤原]行成仰せて云く、「東三条院の御惱軽からず。赦令を行ふべし。八虐・強窃二盗・私鑄錢、常赦の所で免ぜさる所を犯すの者は、赦除の限りにあらず」てへり。外記[中原]致時朝臣を召し、年々の詔書を召し見る。内記・中務の輔(良峰遠高)を召し遣わす。又仰せて云く、「未断の囚の勘文を進らしむべき」てへり。府生[飛鳥部]好兼に仰す。大内記紀の斎名参り来る。詔書の趣きを仰す。夜に入りて草見了りて、これを進る。右府に奉る。これ帰り来るの後、御所に進み、奏聞し、返し給ふ。清書せしめ、又奏す。御画日了んぬ。返し給はるの後に仗座に着す。中務省のを召す。輔遠高。これを給ふ。

未断の囚の勘文を奏聞せしむ。仰せて云く。輕犯のものは殊に見えず。相定めて免し給うべし。奏者の僧一人・俗一人・女二人を撰び、相定めて奏聞す。即ち勅許あり。指點して好兼に下し給う。須べからく詔書を施行之後原免すべし。而れども御惱軽からず。又前例あり。忽以て原免す。権の佐[源]孝道朝臣を以て宣旨を書き下さしむ、子一剋退出す。

早朝女院に参り、右大臣に謁す、院の御惱昨日極重し、院号・年爵・年官等之事を停めらるるの由し、昨夜奏聞せられおわんぬ。又云く、或人の呪咀と云々、人々厭物寝殿板敷の下より掘り出すと云々。

## English

[First month]

**Fifth day, *hinoeuma* {Forty-third day of the sexagenary cycle}.** Today the tennō visited the retired queen consort (*nyoin*) {his mother, [Fujiwara no Senshi]}. At the second quarter of the double hour of the horse {12 PM}, the tennō entered the royal palanquin, exited through the Kenshun and Yōmei Gates, and proceeded to the residence {of the retired queen consort}. At the middle gate, they set the palanquin down. After offering salutations, the retired queen consort offered the royal meal. Senior Counselor Fujiwara no [Akimitsu] served as their companion for the meal; the retired queen consort did not summon the other senior nobles. From the accompanying senior nobles to the lower-ranking guards, each received emoluments. Lord [Minamoto] no Narinobu was accepted as her {the retired queen consort's} royal intimate

At the time of his majesty's return, the royal palanquin was set down at the foot of the south stairs {of the main hall at Higashi Sanjō}, {although} the announcement of his majesty's

presence was as usual. Perhaps there was an order from the retired queen consort {**Princess Shōshi**<sup>2</sup>}. We returned to the palace before it reached evening. Those accompanying were: Minister of the Right [Fujiwara no Michinaga]; the two senior counselors ([Fujiwara no] Akimitsu and [Fujiwara no] Kinsue); the three middle counselors ([Minamoto no] Tokinaka, [Fujiwara no] Kanetada], and myself); the four Council of State advisors ([Taira no] Korenaka, [Fujiwara no] Kintō, [Fujiwara no] Sanenobu, and [Minamoto no] Toshikata). Council of State Advisor [Fujiwara no] Tokimitsu remained behind to look after the palace<sup>3</sup>. Director of the Ministry of Popular Affairs Fuminori {also} visited the residence {of the retired queen consort}. Council of State Advisor [Fujiwara] Yasuchika was serving the retired queen consort {likely as a member of her household}.

**6<sup>th</sup> day, *teibi* {44<sup>th</sup> day of the sexagenary cycle}**. At the ceremony for the conferring of ranks, nobles of the level of minister of the right and below were at the guard post. At the hour of the monkey {3 pm}, **we** followed the summons and went to the **residential** palace. We did not go to the *Gisho* Hall<sup>4</sup>. The participating nobles, Minister of the Right {Fujiwara no Michinaga} and Inner Minister [Fujiwara no Korechika], the two senior counselors (Fujiwara no Akimitsu and Fujiwara no Kinsue), the four middle counselors (Minamoto no Tokinaka, Fujiwara no Yoshichika, myself, Fujiwara no Takaie), the eight Council of State advisors (Fujiwara no Michitsuna, Fujiwara no Yasuchika, Fujiwara no Tokimitsu, Fujiwara no Korenori, Fujiwara no Kintou, Fujiwara no Sanenobu, Minamoto no Sukenori, Minamoto no Toshikata). Takaie presented the list of those nominated for promotion in rank by the royal family members<sup>5</sup>. Twenty people received conferment of rank. The Minister of the Right finished writing {the list}, and after the tennō reviewed it, he summoned me and gave me the list. (It was placed in the willow box.) The writer should have picked up the list of appointments together with his baton, but he passed it to me. I took it and retired.<sup>6</sup> Then, I took up the box together with the baton, and I summoned the council secretary from the guard post. I ordered the officials to lay out the seat of the residential palace secretary. I called for the inkstone. I examined each of the certificates of rank one by one. When I finished, I took the list to Minister of the Right's chambers in the back palace. Then, I presented {the list} to the tennō. ...({There were some from} civil and military ranks. Ranks were received.) After I had it memorialized to the tennō, I returned to the guard post. I had {them all} placed in the willow box. Then...I summoned.... {He} acknowledged {this summons}. In the little garden, he kneeled.<sup>7</sup> I commanded him, the seal...the junior counselor under the covered corridor, the **officer**...withdrew and placed [it]<sup>8</sup>... Lieutenant [Minamoto no] Tadanori of the inner palace guards stood up and I called the ministry of central affairs. Central Affairs Junior Second-Level Manager [Yoshimine no] Tōtaka acknowledged {the summons} and knelt. I gave him the letters of appointment, (which went into the box). He accepted this {box} and placed it on the desk. The Junior Counselor finished stamping the seals. Tōtaka took the box and presented it. I had him {go through} each certificate and put them into two boxes. I {then} had two residential palace secretaries bring them into the royal presence and present them to the tennō. He returned them, and I had the residential palace

<sup>2</sup> Need note: clarifying actors, palanquin protocol

<sup>3</sup> Need note: State-of-the-Union-like rules for non-attendance

<sup>4</sup> The ritual handbooks stipulated that they could hold the discussions regarding the *joi* at a separate place, the *Gisho* (a room in the eastern hall known as the *Giyōden*), but on this occasion they did not do so.

<sup>5</sup> Need a note!

<sup>6</sup> Need note: *tenjō no ma*? not clear

<sup>7</sup> See previous note re: little garden in front of guard post

<sup>8</sup> The junior counselor seals the certificates, the *shurei* keeps the seal, and two officials attached to this ceremony of signing the certificates.

secretaries {put them} in order of rank. I had Council of State Advisor [Minamoto no] Toshikata write out the lists of {new} holders of fourth-rank and below. The one for the Ministry of Personnel and the one for the Ministry of Military Affairs went into separate boxes. After I memorialized {the lists to the tennō}, I withdrew.

**Tenth day, *shingai* {forty-eighth of the sexagenary cycle}.** I went to the residential palace. There were rank conferments for women—fourteen people—and rank conferments for men, including Senior Fifth Rank Lower Grade Fujiwara no Kanetaka son of the late Minister of the Right [Fujiwara no Michikane] and Junior Fifth Rank Upper Grade Fujiwara no Narichika, (nominated by Retired Tennō Kazan). After that, the royal intimates, residential palace secretaries, and lower staff of the Residential Palace Secretariat were determined. (Also: Royal Secretaries Junior Residential Palace Secretary Minamoto no Koremitsu, Second-Level Manager of the {Bureau of} Palace Kitchens Tachibana no Yukisuke, formerly a staff member of the Royal Secretariat), Student of Letters Minamoto, formerly a staff member of the Royal Secretariat; Royal Intimate Fujiwara no Hironari; and Royal Secretariat Staff Members Fujiwara no Chikamochi and Fujiwara no Yoritsune.

Minister of the Right went to His Majesty, {and consulted him regarding} the list of appointees. Then he returned to the guard post and passed {the list} to Senior Residential Palace Secretary **Itsuna**. {He} ordered that {**Itsuna**} should create the letters of appointment. {There were} two {letters for} nominees from the royals. (One {was} for the current year, sealed with a strip of paper and one character of a name, {for} Fujiwara no Meishi. One was for Kanna 2 {986 CE}, the nomination {**given at the time of a tennō's**} enthronement, which had not yet been used. Koremune no Yoshiko was similarly handed down, but there was no paper seal).<sup>9</sup> Minister of the Right, Inner Palace Minister, two major counselors, two middle counselors (myself and Kanetada), and five Council of State Advisors (Yasuchika, Sukenori, Kintō, Sanenobu, and Shunken) decided at the guard-post on evaluations of provincial governors. We departed late at night.

**Sixteenth day, *teishi* {fifty-fourth day of the sexagenary cycle}.** I went to the residential palace. By order of Minister of the Right, the seals were to be stamped on certificates of rank for those promoted during the Women's Promotion in Rank Ceremony. First, I went to the Minister of the Right's office in the Back Palace and showed him the certificates of rank. In the meantime, night fell. His Majesty wished to appear in the Southern Hall. {The royal secretaries} told {this to} Minister of the Right, so the stamping of the certificates stopped. It should be completed tomorrow.

At the hour of the monkey {3:00-5:00 PM}, His Majesty arrived. The Minister of the Right was the master of inner ceremonies. The Dance and Song Royal Banquet [*Tōka*] went on as usual. However Senior Right General Akimitsu[...]; afterwards he returned the sake cup and bowed {before His Majesty}. [It was a great discourtesy]. People were shocked and staring.<sup>10</sup> [...] Eventually {the banquet} was over. After all returned home, (Minister of the Right Fujiwara no Akimitsu, Senior Counselor Kinsuke), four middle counselors (Minamoto no Tokinaka, Fujiwara no Yoshichika, Fujiwara no Takaie, and myself), and five advisors (Fujiwara no Yasuchika, Fujiwara no Korenori, Fujiwara no Kintō, Fujiwara no Sanenobu, and Fujiwara no Toshikata). [...] country. After I had returned home, Minister of the Right conveyed the following in his letter. Kazan [...] (Filled in from an excerpt from the *Sanjō nishikejū komonjō*, in the *Yaryakushō* from Chōtoku Second Year First Month Sixteenth Day:

<sup>9</sup> Probably the name of the tennō or nominator.

<sup>10</sup> [Need note on how a second bow may have suggested he wanted another cup.](#)

“Minister of the Right conveyed this in a letter: Kazan Hōō[[note to explain this rank](#)], Minister of the Interior, and Middle Counselor Takaie, were said to have met at the former premier minister’s residence. There was an altercation. Two young servants were killed and their heads taken, it was said.”)

This part of the original text lost.

## [2<sup>nd</sup> Month]

**[Fifth day, *hinoene* {thirteenth of the sexagenary cycle}].** {The tennō ordered me,} “There are reports that soldiers are hidden at the house of Third-level Official [...]”<sup>11</sup> [Minamoto no] Munemitsu and his brothers. Dispatched a third level official.<sup>12</sup> Even though this is a house of one above the fifth rank, you do not need to memorialize it.<sup>13</sup> Immediately investigate {this house} and any other suspicious locations.”<sup>14</sup>

This matter seems quite suspicious. Lord [Sugawara no] Tadanobu is a household official of Inner Palace Minister [Fujiwara no Korechika]. Munemitsu is also the [...]”<sup>15</sup> at this house. Rumor has it that Inner Palace Minister is provisioning many soldiers at his house. I received {His Majesty’s order} and withdrew. I went to Minister of the Right {to appraise him of the order}, quickly returned to [...],<sup>16</sup> and commanded Provisional Second Level Manager Takamichi and the royal police {to follow the royal orders}.

Night fell, and the third-level officials returned and said, “We investigated Tadanobu’s house, but he had gone to the funerary service of the late Novice Third Rank ([Minamoto] Kiyonobu).”<sup>17</sup> However, when we investigated Tadanobu’s house, there were eight men (two sets of bows and arrows). We immediately seized them.” I commanded them to go to the palace to memorialize {His Majesty}.

{Another group of guards} searched for Munemitsu, but he was not there. The block captain<sup>18</sup> said, “Before the police arrived, seven or eight soldiers had already taken flight.” All the second-level managers and lower-ranking guards pursued them on horseback. This was all very surprising. Perhaps all of this was because of the recent state of lawlessness in the capital.<sup>19</sup> I commanded the officials to investigate the capital and surrounding mountains every day.

**2<sup>nd</sup> month. 11<sup>th</sup> day. *Jingo* {19<sup>th</sup> day of the sexagenary cycle}.** I heard that the progress by the second queen consort [Fujiwara no Teishi] was delayed. Therefore {I} summoned Council Secretary [Hayashi] Sukekado {and sent him to ask the household of} the second queen consort and the council secretary [Fujiwara no Tadanobu] about the situation. The answer was that there would be no progress today. Minister of the Right {Michinaga}, Senior Counselor [Fujiwara no] Kinsue, Middle Counselor [Minamoto no] Tokinaka, the Council of State advisors [Fujiwara no]

<sup>11</sup> The text of his office is missing.

<sup>12</sup> Likely a gate guard (*emon*) also working as a royal police (*kebiishi*) to investigate.

<sup>13</sup> Normally they would need royal permission to enter a high-ranking household.

<sup>14</sup> This is likely a summary of orders given to Sanesuke by the tennō, as he held direct command of the royal police

<sup>15</sup> Text is missing

<sup>16</sup> Text is missing, likely to the Headquarters of the Gate Guards or the palace.

<sup>17</sup> Funerary services were performed throughout the day and would have been crowded with those of higher rank, making it inappropriate for low level guards to enter.

<sup>18</sup> The leader of the group of five households mandated by the *ritsuryō* codes for mutual surveillance.

<sup>19</sup> Ambiguous. It is unclear if only the current state of unease or the private provisioning of soldiers.

Yasuchika and [Minamoto no] Toshikata were in the guard post {for discussions}. The head of the royal secretariat *cum* middle captain came into the guard post to convey {the tennō's order} to the Minister of the Right that the senior nobles consider and report upon the crime of the inner minister {Korechika} and Middle Counselor Takaie. All those assembled bowed their heads and sighed. At early evening, everyone withdrew.

I asked head of the Royal Secretariat *cum* middle captain face-to-face about the matter of the royal visit. He said, “Last night there was an order that we should await later orders.”

### Third Month

**Second day, *jinin* {thirty-ninth of the sexagenary cycle}.** I went to the residential palace. {Then,} Palace Guard of the Left and Council of State Advisor [Fujiwara no Kintō] rode with me, and we went to the residence of Retired Queen Consort (*nyoin*) [Fujiwara no Senshi]. Prince of the Board of Censors [Tametaka], Prince of the Kyushu Government Headquarters [Atsumichi], Minister of the Right [Fujiwara no Michinaga], both senior counselors [Fujiwara no Akimitsu] and Kinsue, two middle counselors (Fujiwara no Kanetada and myself), six [*sic*] Council of State advisors (Fujiwara no Michitsuna, Fujiwara no Tokimitsu, Fujiwara no Kintō, Fujiwara no Sanenobu, and Minamoto no Toshikata), and three people of the third rank {without posts} (Kanehira, Sugawara no Sukemasa, and Fujiwara no Arikuni) also came.

Since it was the Day of the Fifth Scroll {of the Lotus Sutra Lectures}, there were offerings. Due to rain, {the monks} were unable to walk around the garden and could only walk around the floor of the residence. There were many people and little space. Michitsuna was dressed for deep mourning; of all those who have dressed for deep mourning, I have never seen any enter the royal presence. Head of the Palace Secretariat *cum* Middle Captain [Fujiwara no Tadanobu] conveyed the tennō's orders, saying, “Tomorrow, Second Queen Consort [Fujiwara no Teishi] will return to her home.” I {sent a messenger} to summon a council secretary and also to tell the Senior Council Secretary Lord [Nakahara no] Munetoki that he should serve in this matter. Due to heavy rain, {I} was unable to go to the residential palace, and the council secretary was far away and did not come {to Higashisanjōin}.

**Fourth day, *kōshin* {seventeenth day of sexagenary cycle.}** I went to the residential palace. This evening the Second Queen Consort left for her palace on the northern side of Nijō Avenue. The council secretary reported, “The Bureau of Horses Left Division, sent their regrets, that for some reason they could not serve.” I reported this to His Majesty, and he ordered: “Today let this be excused. Let them serve as soon as possible.” I immediately gave orders to the council secretary and went to the Second Queen Consort (she was in her office in the Second Queen Consort's Household). It was raining on and off. As the night went on, the rain grew heavy. Senior Controller of the Left, [Taira no] Korenaka and Commander of the Right Military Guards, [Minamoto no] Toshikata were in attendance. Other than myself, the remainder of the senior nobles, every one of them, had some excuse and did not come. Her Majesty did not use the royal palanquin; she rode in the *binrouge* carriage instead. At the hour of the dog {8:00 PM}, Her Majesty left via the Yōmei Gate. In her private residence a banquet was not provided. The senior nobles and lesser officials stood waiting for her and then [after her arrival] dispersed.

Lord Senior Counselor, [Fujiwara no] Akimitsu, took up his new position<sup>20</sup> during the double hour {around midnight}. This was said to occur on an inauspicious day. Others said it was wrong to assume a new position during a dragon day<sup>21</sup> in spring because it was terribly unlucky.

**Tenth day, *kanoeinu* {forty-seventh day of the sexagenary cycle}**. I went to the palace. Middle Counselor Fujiwara [Akimitsu] and Senior Controller of the Left [Taira no Korenaka] were in the guardroom, where they decided {who would fill} the vacant positions for the seasonal sutra reading. **I went to Retired Queen Consort's {Senshi's} residence**. Minister of the Right, Middle Counselor Kanetada, the Council of State advisors Tokimitsu, Korenaka, Sukemasa (third rank with no post), [Fujiwara no] Kintō, [Fujiwara no] Sanenobu, and Toshikata also went. The Twenty-eight Lectures {on the Lotus Sutra} ended.<sup>22</sup> The tennō gave Retired Queen Consort the nominating authority to advance someone into Buddhist orders. There was a prayer petitioned to the Buddha. After that, one or two others offered prayers of petition, and the counselors and those below them offered emoluments to the monks. Everyone withdrew in the evening.

**19<sup>th</sup> day, *kibi* {56<sup>th</sup> day of the sexagenary cycle}**. In the early evening I visited the residential palace. I ordered someone to call the {representatives of} {the ministry of personnel and the ministry of military affairs}. As night fell, {they} came to the residential palace.<sup>23</sup> I summoned Council Secretary Morishige, and {I} called for the things we needed. He placed the List of Corrections in a box and brought it with him. I had Council Secretary open the paper seal. Council Secretary Morishige said three times that the representatives of the Ministry of Personnel have presented themselves. The precedent was thus. Third Level Official of the Ministry of Personnel Sugawara no Sadayoshi put on his shoes and stood in the little garden {in front of the guard post}. I said, “Mōko,”<sup>24</sup> and Sadayoshi responded positively. He arrived at the *hizatsuki* cloth and knelt. I handed him the list of appointments with my right hand. Sadayoshi took too long to put the baton in his belt. The prior practice is to just put it down by his side. He doesn't know the precedent.

Sadayoshi put on the slippers, and arrived at the *hizatsuki* cloth {for the ceremony}, and he took the list of corrections. (This year, I handed over the list with these labels affixed {to indicate the corrections}. Last year, the numerous sheets were stacked and counted, and handed over {to the representative of the ministry of personnel}). When it was finished, he withdrew. Then, Aide for the Ministry of Military Affairs Fujiwara no Nobutsune came to the residential palace and I gave him the list of corrections. At the end of the hour of the dog {9:00 PM} I withdrew.

**Twenty-eight day, *boshin* {fifth of the sexagenary cycle}**. There was a summons from the tennō, and I immediately went in {to the residential palace}. Head of the Royal Secretariat [Fujiwara no] Yukinari ordered, “The illness of the Retired Queen-Consort of Higashisanjōin is grave. A general pardon should be issued. Those who have committed the eight unpardonable crimes, robbery or burglary, counterfeiting, and {other} crimes not covered by an ordinary pardon do not fall within the bounds of this general pardon.”

<sup>20</sup> Need note

<sup>21</sup> *Tatsu no haru no setsume*

<sup>22</sup> Need note on lecture series

<sup>23</sup> Need note: probably to the guard post

<sup>24</sup> A ceremonial word meaning “come.”

I summoned Council Secretary Lord [Nakahara no] Munetoki and {ordered} several years' worth of royal edicts brought to look at. I called for a residential palace secretary and Second-Level Manager of the Ministry of Central Affairs (Yoshimine no Tōtaka). {Yukinari} further ordered, “A report regarding the accused whose crimes have not been determined should be presented.” I gave orders {regarding this} to Constable [Asukabe no] Yoshikane.

Senior Residential Palace Secretary Tokina came. I gave him orders about the gist of the royal edict {of general amnesty}. Night fell and he finished the draft, which he presented {to me}. I finished looking at it and presented it to Minister of the Right. After I returned {from Minister of the Right's office}, I went to the tennō's presence and memorialized it. He returned it. I had a final copy made and memorialized it again. His Majesty added the date {in his own hand}. After he returned it, I went to the guard-post, summoned Second-Level Manager of the Ministry of Central Affairs Tōtaka, and handed this {edict} over.

The report regarding those accused whose crimes have not been determined was memorialized before His Majesty. The tennō commented “I don't see menial crimes {on this document}. Let them be decided upon. Choose those who should be pardoned and memorialize them.” A monk, a laymen, and two women were decided upon and {their names} memorialized. I pointed at each name and gave it to Yoshikane {to carry out}. Amnesty should be carried out just as in the royal edict. When there is such grave illness, the precedent is to quickly grant such amnesty. Quickly the amnesty was carried out. Again this was by precedent. I ordered the secretary, Lord Minamoto no Takamichi to write it, and at the first hour {just before midnight} withdrew. Early in the morning I came to the Retired Queen Consort, and then had an audience with the Minister of the Right. The Retired Queen Consort's illness yesterday was extremely grave. The Retired Queen Consort last night sent a memorial that her title as Queen Consort and the annual ability to nominate someone for rank and post, were to be canceled. He also said that it is thought that someone has cursed her. It is even said that they found the cursed object under the wooden floor of her residence.